

2022（令和4）年度 道徳学習指導研究委員会 研究のまとめ

一 テーマ

子ども達が「道徳的価値を深め合う」指導の工夫

二 テーマ設定の理由

テーマは昨年度と同様である。主体的で対話的な深い学びを実現するため、道徳科では特に対話が重要であると考え。そこで、教師からの一方的に価値観を押し付けるのではなく、子ども達が対話によって道徳的価値を深め合う授業を行っていききたいとの思いがあった。授業改善を目指し、指導の工夫を考えるこのテーマの元に今年度も活動をした。

三 研究の経過

研究は主に、①授業研究会への参加、②各自の授業実践、③委員同士の情報交換、の3つの方法によって進めた。新型コロナの感染拡大により、①については思うような活動ができなかったが、オンライン会議を充実させたことにより、委員同士の情報交換は密に行うことができた。

教育課程研究協議会では、研究協議Ⅱの準備運営と当日の司会を行った。各指導委員が教材を選択し、グループごとに教材研究を行った。

四 研究の内容

「子ども達が『道徳的価値を深め合う』」にはどのような指導の工夫ができるかを考え、各指導委員がそれぞれテーマを決定し、研究・実践を行った。

1. 子どもたちが思いや考えをもち、自己を見つめなおす道徳の授業を目指して

(1) 主 題 「気持ちを伝えるために」

資料名(内容項目)「おれたものさし」(A 善悪の判断、自律、自由と責任)

出 典 『新訂 新しいどうとく②』 東京書籍

(2) 主題設定の理由

学習指導要領には、善悪の判断について「人として行ってよいこと、社会通念として行ってはならないことをしっかりと区別したり判断したりする力は、児童が幼い時期から徹底して身に付けていくべきものである」と記されている。このことから、低学年では、「ルールに照らし合わせて、相手の気持ちを考えながら、よいことと悪いことを的確に判断すること」、「判断したことをもとに、行動にうつすこと」の2つを目指していききたいと考える。

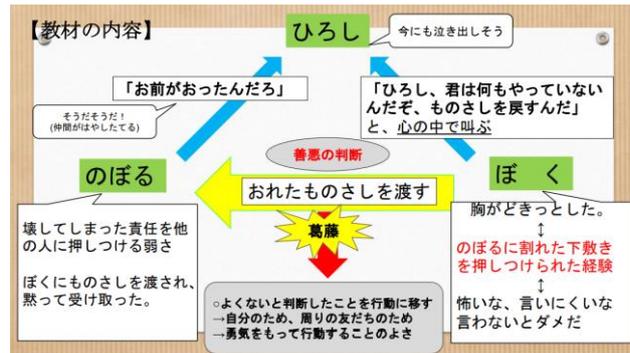
今年度は2年生の学級担任をしている。本学級の児童たちは、困っている友だちや泣いている友だちがいる際には声をかけるなど、よいと思ったことは進んで取り組もうとする姿がある。一方で、友だちがルールを破ったり、よくないことをしたりしている場面を見た際に、本人を目の前にすると心に葛藤が生じ、注意することをためらってしまう姿がある。注意をすることは勇気が必要である。そこで、児童たちが勇気を出して本当はよくないという思いを伝える大切さを感じることで、よくないことは注意しなければいけないという思いや判断力を育みたいと願い、本主題を設定した。

(3) 教材について

【あらすじ】

のぼるは先生のものさしを折ってしまったが、折れたものさしを持たせ、ひろしのせいにしてみよう。それを見ていた「ぼく」は、以前にのぼるから壊れた下敷きを押しつけられ自分のせいにされたことを思い出す。今にも泣き出しそうなひろしを見て、「ぼく」はひろしからものさしを取り、のぼるに渡す。

本時のねらいに向けて、以前、「ぼく」が下敷きを押しつけられた経験や周りからの声により、本当の気持ちを伝えたいけれど伝えられないという葛藤をクラスで共有したい。そこで、人間関係を板書で整理し、状況を理解しやすくする。また、葛藤を乗り越えた「ぼく」の思いについて考えさせたい。そのために、「ぼく」がのぼるにものさしを渡す場面で「ぼく(児童)」、「のぼる(教師)」、「ひろし・様子見ていた友だち(役割演技を見ている児童)」の役に分かれ、即興型の役割演技を行う。役割演技を通して「ぼく」の行動や思いを考えることで、勇気を出して本当はよくないという思いを伝える大切を感じ、よくないことは注意しなければいけないという思いや判断力を育みたい。伝えられないと考えていた児童も、「ひろし・様子見ていた友だち」の立場で考えることでよくないことは注意しなければいけないという思いを育みたい。また、黙って受け取った「のぼる」の気持ちを考えることで、人の弱さを認めつつ、人に責任を押しつけてはいけないことにも触れたい。



(4) 展開(学習活動)

①【導入】

- 友だちが悪いことをしていたらどうするか問うことで、経験を想起させ、本時の問いを共有する。

問「よいと思ったことを伝えるために大切なことは何だろう」

②【展開】

- 教材を読む。
- のぼるがひろしのせいになっているときに「ぼく」はどんなことを思ったのか考える。
- 自分が「ぼく」だったら、どうするか考える。

中『なぜ、「ぼく」は、ものさしを渡すことができたのだろう』

※葛藤しながらも、正しいと思ったことを行動に移せた「ぼく」の思いを考える。

- 「ぼく」がのぼるにものさしを渡す場面で即興型の役割演技を行い、勇気を出して本当はよくないという思いを伝える大切さを考える。

③【振り返り】

- 授業を通して、「よいと思ったことを伝えるために大切なことは何か」を考える。

(5) 本時における児童の様子

【役割演技の場面】

《言ったほうがよいと考えていたA児》

教師：のぼる役の先生に一言言ってからものさしを返してね。

教師：ひろしが割ったんだよ！

A児：でも、、本当はのぼるが割ったんだから、のぼるに返す。

他の児童：おおー(拍手)

T：「ぼく」の役をやってみてどんなことを感じましたか？

A児：もし、言わないと喧嘩が起きるから言ってよかった。



《言おうか言わないか迷っていたが、言う決断をした B 児》

教師：ひろしが割ったんだよ！

B 児：もうやっちゃだめだよ。

他の児童：ああ。(A 児との言い方の違いを感じていたようであった)

教師：迷っていたけど、どうして言おうと思ったの？

B 児：言うか言わないか迷ったけど、言わなかったからのぼるがわかってくれないかもしれないからちゃんと言った。

教師：ひろしの立場で見ていた人たちはどう感じましたか？

C 児：ものさしをのぼるに渡してくれてありがとうと思った。

D 児：心がほかほかした。

E 児：自分(ひろし)なら言えなかったから言ってくれてよかった。

《児童の振り返りワークシートより》

- ・心がドキドキしてもやってはいけないことはちゃんと注意したいです。
- ・自信をもってきちんと言うことが大切だと思いました。
- ・気持ちが大事だと思いました。
- ・ちゃんとこれはやっちゃいけないんだよと教えてあげるのが大切だなと思いました。

(6) 授業を振り返って

本年度はねらいに向けて、役割演技を多く取り入れてきた。本時では、即興型の役割演技を行った。即興型で行ったことで、実際の場面のような緊張感があり、「ぼく」や「のぼる」を演じた児童や「ひろし(様子見ていた友だち)」の立場の児童も自分を重ねながら取り組む姿が見られた。一方で、自分を重ねて考えることが難しい児童もいた。また、勇気をもって伝えることの難しさを改めて感じていた姿も見られた。そのような児童には、本時の1時間だけでなく、同じ内容項目や関係のある内容項目の授業の中でも手立てを考え、授業を重ねていく中で道徳的価値への理解を深めていきたい。役割演技を即興型で行ったことは、実際の場面のような緊張感があるよさがあると同時に、その場で考え、その場で話すという難しさもあったように思う。ねらいに合わせて、手立てとして役割演技を繰り返し行っていくことも必要であると感じた。

2. 「〇〇な気持ち」を具体的な言葉で表現する授業実践

～「それっておかしいよ」を使った役割演技やワークシートの作り方の工夫を通して～

- (1) 題材名 「それっておかしいよ」 出典：新訂 「新しいどうとく①」(東京書籍)
- (2) 内容項目 善悪の判断、自律、自由と責任
- (3) 主題名 よいこと わるいことを区別して
- (4) 本時の主眼

道徳「それっておかしいよ」で、みんなが順番に並んでいる中で横入りをする友だちのまさくんに対し、いけないことだと分かっていると言い出すことができない主人公の気持ちを考えた子どもたちが、役割演技を通して、日常生活を想起しながらよいことと悪いことを区別し、勇気をもってよいと思うことを進んで行おうとする心情を育てる。

(5) 本題材を用いた理由

道徳の授業で、相手から言葉や身体で一方的にいじわるや迷惑行為等をされたときにどう感じるか登場人物の気持ちを問うと、「いやな気持ち」という一言で終わってしまうことが多い。1年生という

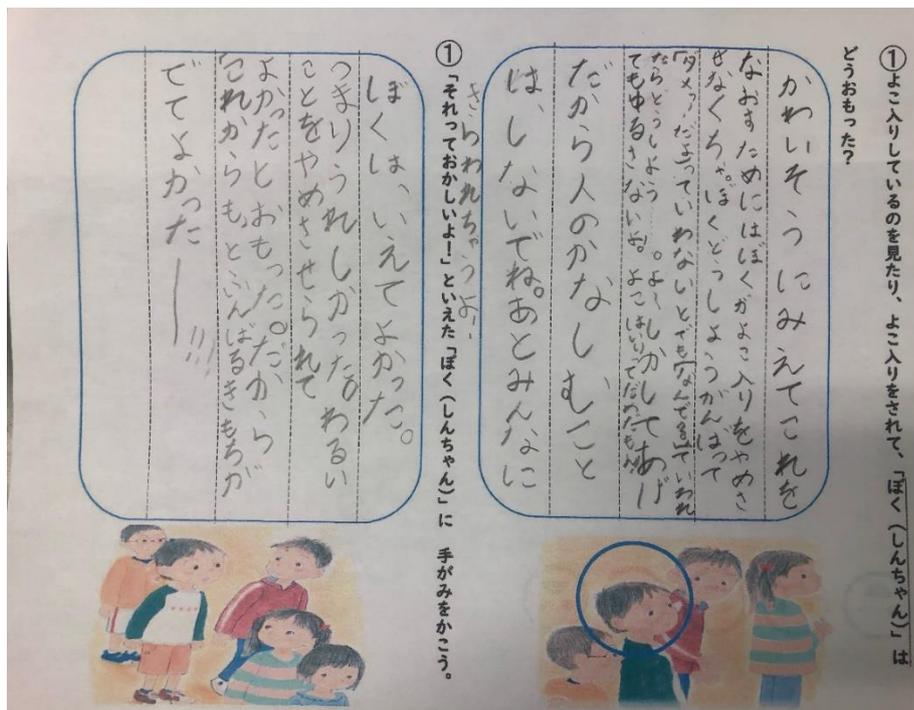
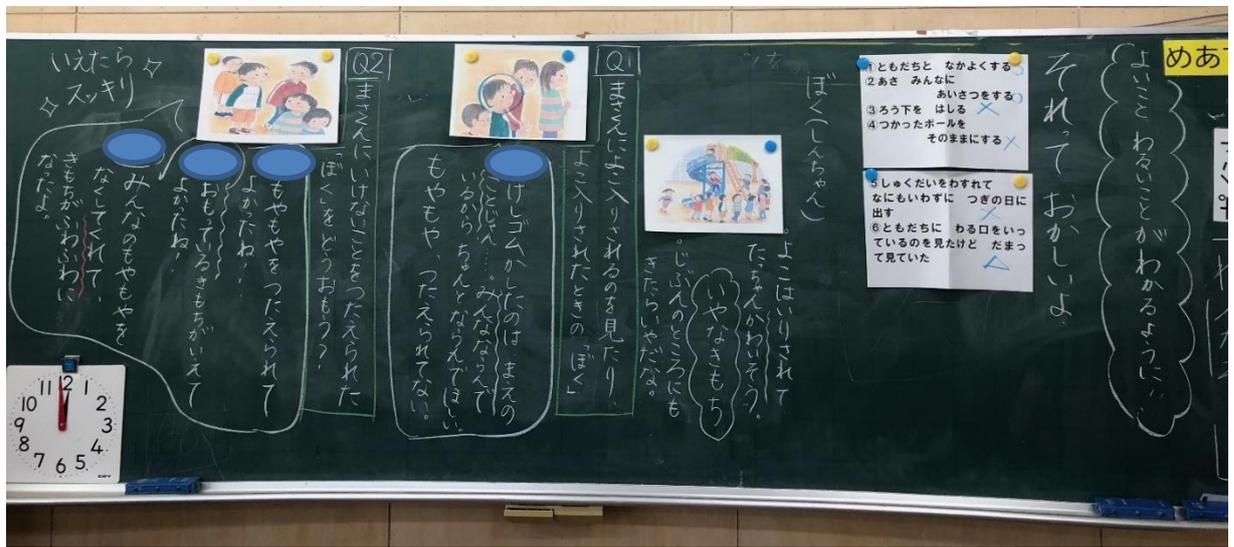
語彙の少ない年齢ではあるが、「いやな気持ち」とは、具体的にどんな思いを指すのか、役割演技やワークシートの作り方の工夫を通して児童が素直に感じたつぶやきをクラス全体に広げ、気持ちを問う際に多様な表現が出てくることを目指し、本題材を用いて授業を行った。

(6) 本時の展開

	学習活動と教師の発問	児童の反応	支援と評価
導入	<p>1. 教師の「○×クイズ」に答える。 いいことは○、わるいことは×で答えてみよう。</p> <p>① ともだちとなかよくすること ② あさ みんなにあいさつすること ③ ろう下に はしること ④ つかったボールをかたづけな い ⑤ しゅくだいをわすれたけど、な にもいわないでつぎの日に出 す。 ⑥ ともだちが わるくちをいっ ているのを見たけど、しらない ふりをしてだまっていた。</p> <p>2. めあてを知る。</p>	<p>① いいことだ。 ② これもいいことだよ。 ③ これはいつもいわれているか らだめなことってわかるよ。 ④ つかったらかたづけなきゃい けないから、これも×。 ⑤ たまにそういうときあるな。つ ぎの日出せばいいかも。でもい わないのはだめかな。 ⑥ わるくちをいっているのはだ めだけど、見ているだけならわ るいことじゃないよね。 × でも○でもないから△かな。</p>	<p>・各質問をスケッ チブックに書き、 後で○×がわかる ように A3 用紙に まとめて掲示して おく。 ・クイズは日常の 様子を話しながら 行う。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> いいことか わるいことか かんがえよう！ </div>		
展 開	<p>3. デジタル教科書で範読（前半） を聞く。 ・登場人物の確認</p> <p>発問①: まさくんによこ入りされた のを見たり、よこ入りされたりした 「しんちゃん（ぼく）」はどんな気 持ちだったろう。</p>	<p>・まさくん（横入りをする子） ・しんちゃん（横入りしているの を見たり、自分がされたりする子） ・たっちゃん（最初に横入りをされ て、何も言えなかった子） ・なんでよこ入りするのか。 ・いやだな。 ・うしろになればいいのに。 ・いいたいけど、こわくていえない な。</p>	<p>・ワークシート</p>

	<p>4. デジタル教科書で範読（後半）を聞く。</p> <p>補助発問：まさくんは、まえにしんちゃんにもののかしたり、いっしょにあそんでくれたりしたんだね。だからよこ入りしてもいいのかな。</p> <p>・役割演技をする。</p> <p>教師：まさくん 児童：しんちゃん</p> <p>5. 発問②：「それっておかしいよ」といえたしんちゃんはどんな気持ちだったろう。いけないことをつたえられたしんちゃんに お手かみをかこう。</p>	<p>・なんでみんなだまっているんだろう。</p> <p>・うーん。やさしいことしてくれたけど、それといまはちがうな。</p> <p>・かんけないよ。いけないことはいけないとおもう。</p> <p>・もしかしたら、よこ入りしないでいいにくいかも。いえなくてもやもやしているんじゃない？</p> <p>台本なし（自分の言葉で）</p> <p>まさ「しんちゃん、ここいれて」</p> <p>しんちゃん「・・・」</p> <p>まさ「だまってるなら入るよ」</p> <p>しんちゃん「だめ。みんなならんでるよ。」</p> <p>まさ「でも、このあいだいっしょにあそんであげただろ！入れてよ」</p> <p>しんちゃん「それっておかしいよ！それはまえのことでしょ。ちゃんとならんで！」</p> <p>・もやもやがはれてすっきりした！</p> <p>・しんちゃん、みんなのためにいてくれてありがとう。わたしもこうやっていえるようになりたいな。</p> <p>・ちゃんとわかってくれてよかったね！</p> <p>・もやもやした気持ちもがすっきりにかわってうれしいね！</p>	<p>・最初はしんちゃんに言われて、すぐに後ろに並ぶまさくんを演じるが、2, 3回目には児童の様子を見ながら、「～かしてあげたのに？」や「だまっているなら入っちゃおうよ。」とわざと強引に横入りをしたりして、それでもいけないことを伝えるにはとても勇気があることができるようにする。</p> <p>・イラストを指し、まわりの子の表情変わっていることにも触れ、子どもたちのつぶやきをひろう。</p>
<p>終末</p>	<p>・とってもゆうきを出していったんだらうね！えらかったね。</p> <p>・みんなも「ゆうきを出していえてよかった！」ってことあるかな？</p> <p>★まとめ★</p>	<p>・ろう下をはしている人がいて、ちゅういしようかまよったけど、いえたからすっきりした。</p> <p>・ちくちくことばをいっているとだちがいたから、「それはいったらだめだよ」といえた。ちょっと</p>	

たとえともだちでもだめなことはだめっていえることが大せつなんだね。	こわかったけどいえてよかったな。	
-----------------------------------	------------------	--



(7) 授業を行ってみて

- ・〇×クイズでは、⑥を出すと悩む児童が予想以上に多く驚いた。そのため、本時の「よいことかわるいことか、わかるようになろう」というめあてにスムーズに向かうことができた。
- ・範読を前半後半に分けて行うことによって、しんちゃんが「これはおかしいこと」と感じているのに、まさくんとのやりとり（前にものをかしたり、遊んだりしたことについて）がひっかかり、なかなか言い出せないももやした気持ちに児童が自分の気持ちを重ねて考えることができていた。ただ、ここでのワークシートへの記入を見ると、いつも「いやな気持ち」と書いていることの多い児童は同じように「いやな気持ち」と一言で終わっている様子が見られた。
- ・教師がまさくん役、児童がしんちゃん役で役割演技を行った。教師がまさくん役をする際に、「この前〇〇かしてあげたよね？なんで入れてくれないの？」と強く迫ったり、「だまっているな

人権月間の校長講話で話題になった「花さき山」に合わせて、自分が任された仕事について責任をもって行えたことを振り返り、付箋に書き込んだ。はじめは何を書いたらよいか悩んでいた児童もいたが、少しずつ付箋が出来上がっていくと、「こういうことを書けばいいのか」と友の付箋を参考にしながら書き込んでいく児童の姿も見られた。今までの経験上、自分のよいところを見つけられない児童や恥ずかしくて言葉にすることができない児童がいたが、Jamboard に書くことで自分だけではなくみんなが同じことを考えて書いているという安心感があるのか、きちんと



自分の姿を書き込むことができていた。

【課題】

その場で感じたことを瞬時に書き直すことができる反面、どの児童がどんな気持ちの変化があったのかを後で読み取ることが難しいと感じた。授業での反応やつぶやきなどをよく観察しなくてはならないと感じた。

また、児童が気軽に書き込むことができる反面、言葉遣いが軽くなってしまったり、友の付箋にいたずらをしてしまったり、授業内容とは直接関係ないところで指導をする場面が出てしまった。Jamboard など ICT の活用に慣れ、ツールとして使えるように他の授業や活動でもさらに取り入れていきたいと感じた。

4. 生徒の実情に合わせた教材選択と導入の工夫の実践

(1) 個人テーマ設定の理由

今年度、道徳委員会でテーマとしている「子ども達が道徳的価値を深め合う」を達成するため、まず生徒が教材に興味をもち、道徳の授業に入り込むことが大切だと考えた。そのために、教材はクラスや生徒が抱える実情に関連付く様に選択をした。導入は内容的な導入ばかりではなく、機能的な導入も取り入れる等の工夫を実践した。

(2) 授業実践より

資料 『手品師』(A 正直 誠実)

主題 「誠実であることのよさ」

出典 『中学道徳3 きみがいちばんひかるとき』 光村図書

① 主題設定の理由

今年度は中学校3年生の担任をしている。本学級の生徒は、行事やイベントでは団結力をもって行動することができる。一方で、日々の生活ではメリハリのない生徒が多く、それに問題意識をもつ生徒も、注意できずにいる姿がある。そこで本時では、誠実とはどういうことであるかを考え、誠実であろうとすることのよさに生徒が気付くことを願い、本主題を設定した。

② 教材について

【あらすじ】



© 光村図書 デジタル教材「手品師」

【教材選択の理由】

「手品師」は、小学校6年生の道徳教材として有名な教材である。物語の主人公である手品師は、自分の夢（目標）に向け日々、努力を重ねている。その様な中、男の子との約束を守るために、自らの夢を諦める。しかし、手品師は男の子に対して誠実であろうとした結果、自分の選択に後悔がない姿で物語を終える。

本学級の生徒は、高校受験、志望校合格という大きな目標を前にしている。より手品師の境遇に自分を投影できると考えて、本教材を扱うことを決めた。生徒には本教材を通して、誠実であろうとすることのよさに気付いてほしい。また、自分で悩み抜いて決めたことであれば、どんな結果であろうと後悔なく終えられることにも気付いてほしい。

③ 展開(学習活動)

【導入】

実際に手品を行う（機能的な導入）。生徒に手品のすごさと面白さを実感させ、これから登場する手品師の夢の大きさを想起させる。

【展開】

- ・教材を読む。
- ・「誠実」という言葉の意味を共有する。

補助発問〈手品師は、本当に「誠実」といえるだろうか。〉

→ 「自分」、「男の子」、「友人」、「その他（自由欄）」に対してそれぞれ考える。

- ・共有する。（周りの生徒と話し合った後、意図的指名）

補助発問〈たった一人の男の子の前で手品を演じる手品師は、どんな気持ちだっただろうか。〉

- ・共有する。（周りの生徒と話し合った後、意図的指名）

→ 男の子のために約束をしっかりと守る誠実さと、大舞台に立てなかった後悔の両方に触れる。

- ・物語の終末で手品師には後悔の気持ちがないことに気付かせる。

中心発問〈「誠実」であろうとすることには、どんなよさがあるだろうか。〉

- ・共有する。（周りの生徒と話し合った後、意図的指名）

→ 自分自身へのよさや、周りへのよさがあることに気付く。

【振り返り】

- ・誠実に関わる名言を提示して終える。

「自分自身の戦いと、自分自身に誠実であることが、他人に働きかける手段である。」

④ 反省と改善点

【導入】

導入の手品では、手品のすごさと面白さを実感できた。手品師の夢と志望校合格の目標が重なり、より自分事として教材に向き合っている様子の生徒が多かった。

【展開】

「誠実」の言葉の辞書的な意味が「まじめで真心がこもっている」であった。それを、「約束を守る。」や、「うそをつかない。」という意味に言い換えると、手品師が誠実であるかより分かりやすく考えることができた。

【振り返り】

時間の都合で紹介に留まった。

【全体】

学習カードの記述から、誠実であることのよさに気付いた生徒は多いように感じた。生徒には、時間を守る、何事にも一生懸命に取り組むといった、より誠実さのある基本的な行動ができる様になっ

て行って欲しい。

(3) おわりに

個人テーマを追究した結果、生徒の実情を把握するために、生徒と向き合う時間が増え、より生徒観を高めるように努めることができた。また、導入では内容的な導入と機能的な導入について考えることができた。機能的な導入では、映像教材やクイズ、今回の手品の実演等、準備が必要になるものが多い。教材の内容に照らし合わせて導入法は考えると共に、資料の蓄積と活用をしていきたいとこの1年間でより感じた。

5. クラウドを用いた同時編集による対話的な学びを目指した授業実践

(1) 主題 自分をみつめよりよく生きる

(2) 主眼と教材

「Progress」という曲の歌詞から、よりよく生きるために必要なことは何か考える活動を通して、自己の弱さや醜さを見つめながら、それらを受け入れ克服し、よりよい生き方を目指す心情を育てる。

「あと一步だけ、前に」(光村図書) 〈内容項目〉D (22) よりよく生きる喜び

(3) 主題設定の理由

2学年である生徒は、生徒会の引継ぎ直前である。3年生になるという意識を高めていこうとする一方で、理想と現実ギャップが生じており、生活面や学習面で規律ある態度や自律的な行動のとれない生徒もいる。現在の自分を見つめ直し、その弱さを認めてより良い態度、よりよい行動に移せるようになることを願い、本主題を設定した。

また、授業ではタブレット端末、クラウドを用いた共同編集により、友の考えが常に可視化され、人の意見が見られるようにした。

(4) 展開

- ①導入 自分が元気を貰える曲はあるか。
- ②教材と出会う
- ③発問1 「ぼく」はなぜ「自分をケリたくなるくらいキライ」なのか
- ④発問2 「溜息」、「挫折」のなかでも、なぜ「ぼく」はあと一步前に進みたいと思うのか
- ⑤発問3 自分を見つめていきるとはどういうことだろう
- ⑥振り返り

(5) 本時の考察

本時は、以下のようにタブレット端末とGoogle スプレッドシートを学習カードとして扱い、自分の考えを入力していくことで即時的な対話ができるようにした。

Google スプレッドシート

25	自分が好きで聞きたい曲	聴きたい曲を挙げてみる	自分が好きで聞きたい曲を挙げてみる	自分が好きで聞きたい曲を挙げてみる
26	「ぼくはもう。」なんて悪い気持ちで聞いている曲	今まで聞かなかった曲に聞いてみて聞かなくなった曲を挙げてみる	今の自分が聞かなくなった曲を挙げてみる	自分が聞かなくなった曲を挙げてみる。自分が聞かなくなった曲を挙げてみる。自分が聞かなくなった曲を挙げてみる。
27	自分が好きで聞きたい曲	聴きたい曲を挙げてみる	自分が好きで聞きたい曲を挙げてみる	自分が好きで聞きたい曲を挙げてみる
28	好きな曲を聴いて聞かなくなった曲	聴きたい曲を挙げてみる	自分が好きで聞きたい曲を挙げてみる	自分が好きで聞きたい曲を挙げてみる
29	うまい曲を聴いて聞かなくなった曲	聴きたい曲を挙げてみる	自分が好きで聞きたい曲を挙げてみる	自分が好きで聞きたい曲を挙げてみる
30	行動に繋がらない曲	今の自分と自分が聞かなくなった曲を挙げてみる	自分が聞かなくなった曲を挙げてみる	自分が聞かなくなった曲を挙げてみる
31	なりたい自分に聞かなくなった曲	聴きたい曲を挙げてみる	自分が好きで聞きたい曲を挙げてみる	自分が好きで聞きたい曲を挙げてみる
32	なりたい自分に聞かなくなった曲	聴きたい曲を挙げてみる	自分が好きで聞きたい曲を挙げてみる	自分が好きで聞きたい曲を挙げてみる
33	聞かなくなった曲を聴いて聞かなくなった曲	聴きたい曲を挙げてみる	自分が好きで聞きたい曲を挙げてみる	自分が好きで聞きたい曲を挙げてみる

A 生の記述

- ①「かわいそうに…」なんて言いながら自分は何もしていないから
- ②今まで周りのため息に対して口だけで同情してた自分を変えていくきっかけをつくりたかったから。
- ③今の自分から自力で理想の自分に近づけること
- ④自分を見つめて、生きるのは大事なんだと学んだ。自分の弱さから逃げずに前に進まないといけないと感じた。これからはたまには自分を見つめてみようと思った。

A 生は①～③の記述から、歌詞の中の「ぼく」から今の自分から理想の自分へなることを重視していることがわかる。④の振り返りでは、今の自分について“弱さ”という言葉で表現し「自分を見つめる」ことを、「自分の弱さから逃げない」と具体化した。

この“弱さ”という言葉は③の中で他の生徒が使用した表現である。クラウド上での共同編集によって可視化された他者の考えを自分の考えとすりあわせたとも考えられる。

A 生は本時では、感染症の自宅待機期間であり、教室ではなく自宅でこの授業を受けている。本来では対話することのできない生徒が、クラウドを活用することで他者の考えに触れ、参考にしながら「自分を見つめ、よりよく生きる」について自分の考えを深めることができたのではないだろうか。

(6) ○成果と▲課題

- クラウド上の同時編集により、常に可視化された他者の意見に触れながら考えを深め自信をもって自分の考えを書くことができた生徒が多くいたこと。
 - 教師の手元に全員分の記述が更新され続けるため、関わりのある考えや異なる視点の考えなどを効果的に全体に位置付けることが、通常の授業よりも簡単になったこと。
 - 直接会話のできない環境にあっても教師と生徒の二者間での対話だけでなく、生徒同士の多様な対話を生み出すことができたこと。
 - ▲常に他者の考えが見えていることで、じっくりと自分だけの考えを生み出す時間が十分に取れなかったこと。
 - ▲人の考えに触れる、参考にする、ではなく流されてしまう傾向のある生徒が一定数いたこと。
- クラウド上の同時編集について、他者との関わりという点で一定の効果があった一方で、自分の中で考えを生み出し深めることができない生徒がいるという課題が残った。同時編集と個で向かう時間を効果的に切り替え、自分の考えと他者の考えを比較したり、そこから修正したりできるような指導上、システム上の改善が必要だと考える。

6. 「子どもたちが活発に自分の意見を発表し、共感しあう道徳授業」

～Google スライドと班での話し合いをもとにした授業実践から～

(1) テーマ設定の理由

私の担任する学級は、比較的小となしく、自分の考えを発表したり、人前で話したりすることに苦手意識を持っている生徒が多い。クラス替えしたばかりのころは、教師の問いかけにも反応は薄く、意思表示も苦手と感じている生徒が多かった。そのため、クラスでの話し合いは少数の

	を採用していくことが大事であることを確認する。	ことが大事であることを伝える。
2 展開	<ul style="list-style-type: none"> 教師の配布したスライドを読んで、本時の学習課題を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを加除修正しやすいように Google スライドを用いる。
	学習課題：全員が納得する結論を話し合いで出そう。	
	<p>個人追及</p> <ul style="list-style-type: none"> 砂漠で生き残るために自分が必要だと思うものを一つ選び、理由を記入する。 <p>班内での話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> 班で話し合い、砂漠で生き残るために必要なものを3つ選び、理由を記入する。 <p>学級全体での話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> 各班の発表者が学級の前に出てきて、それぞれの班で決定したものを発表した後、クラス全体として、砂漠で生き残るために必要なものを4つ選ぶために話し合い活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 法に違反するような理由や人を傷つけるような理由は書かないように注意する。 班員全員が納得するまで話し合いを続けるよう促す。 ほかの班が選んだのに、自分たちの班が選ばなかったものについて、その理由も発表させていく。
3 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 今日の話し合いでまなんだことや気づいたことについて、記入する。 	

〈本時の生徒の姿から〉

話し合いの時間を多くとるために Google スライドに教科書の本文、及び砂漠で生き残るための物品 12 個を入れ、生徒に取捨選択させ、理由もスライドに書かせて、班内での発表は自分の選んだものを班員に見せながら行わせた。どの班でも自分が選んだものへの思い入れが強く、なかなか全員のコンセンサスを得ることが難しいことを感じていた。

しかし、話し合い活動が進むにつれて、自分とは異なるものを選んだ仲間の発表に納得する姿が見られたり、自分の中では優先順位は高くなかったものについても新しい使い方や新たな視点の考え方を聞いて、自分の考えを変える姿が見られたりするようになった。

班での話し合いの結果、選んだ 3 つの物品を学級内で発表する場面でも、どの班の発表者も自分たちの意見に自信を持ち、発表することができていた。残念ながら時間がなく、学級として 4 つを選ぶところまで話し合いは進まなかったが、生徒の感想を見ると、多数決ではなく、全員の合意を得るために話し合いをすることは難しいが、自分の意見を聞いてもらって、うれしかった、や、自分と異なるものを選んだ人の話を聞いて、自分にはなかった視点の考え方が知れて良かった、などの記述が見られた。

(本時で使用した Google スライドの一部)

<p>砂漠で取り残された！</p> <p>何が必要か考えよう。 絶対に必要なもの3つだけ残して、他は削除する。 選んだ理由も書きましょう。</p>	<p>約2リットルのアルコール度数の高い蒸留酒</p> <p>(選んだ理由) タイタニックって知ってますか?? 実は、タイタニックが沈んだときに、ウイスキーを飲んで 生き残った男の人がいます！お酒は体温が高くなる。 夜も生き残ることもできます。 空いたものは、容器として使える</p> 
<p>大きいビニールの雨具</p> <p>(選んだ理由) 雨が降ってもしたら防げる 寒いときに切れば暖かくなる うまくやれば水ためれる</p> 	<p>一人一着のコート</p> <p>(選んだ理由) 夜の寒さに耐えられるため 布だから色々なことに使えそう 布として使える止血ができる</p> 

(3) 終わりに

年度当初、自分の意見を発表することに抵抗のあった生徒たちも、班での話し合い活動を多く仕組んでいく中で、徐々に自分から発言することができるようになってきたように思う。また、今までは多数決で物事を決めるのが当たり前と思っていた生徒が、今回の授業を通して、自分の考えを伝えあったり、相手の考えを聞いたりする中で、新しい価値観と出会い、他者の考えに共感することの有用性を感じ、今後は、みんなにとって望ましい案を考えていくことが大事であると感じてくれたと思う。来年度は、修学旅行もひかえている。班や学級で決めていくことも多くなる。今回の経験が、修学旅行に向けての話し合いでも生かされるよう、支援、指導を続けていきたい。

五 研究のまとめと課題

1. 研究のまとめ

「子ども達が『道徳的価値を深め合う』指導の工夫」という研究テーマについて、こうすれば必ず上手くいくというものは当然無い。しかし、各委員による実践によっていくつかの提案はできたように思う。今後も、委員会として、よりよい指導にむけて研究し続けていきたい。

新型コロナの影響により、オンラインによる委員会の開催が大半を占めたが、委員個人での実践と、それを共有する場は充実できたように思う。また、教育課程研究協議会ではオンラインによる開催であったが、大変有意義な研修を行うことができた。本当にありがたい。

2. 課題

今後は、今年度の研究内容を踏まえ、「子ども達が道徳的価値を深め合う」ためには、具体的にどのような授業を展開し、どう児童生徒を見取るかなど、今年度の研究を、評価と関連付けて考えていくことも必要であると思う。

また、年間行事の中での道徳の位置づけ、時間の確保、教材教具の工夫、評価時期の検討など、日頃の指導の中で出てくる諸問題についても継続して考えていきたい。また、道徳の指導や評価について、どう実践したらいいかわからず困っている職員も多にいる。本委員会で学んだことを、いかにして多くの職員に知ってもらい、実践してもらおうかということも今後の課題である。